

大阪大学箕面キャンパスの移転

6月17日(水)、大阪大学と箕面市は、大阪大学の教育研究の発展及び学習環境の向上と、箕面市の活気あるまちづくりを実現するため、大阪大学箕面キャンパス(箕面市粟生間谷東地区)を北大阪急行線延伸に伴い整備される「(仮称)箕面船場駅」東隣(土地区画整理事業予定地内)に移転することについて、覚書を交換しました。

また、大阪大学箕面キャンパス移転後の跡地については、箕面市が保有し、大阪大学と連携しつつ、スポーツ施設の整備など有効活用を検討します。

今後、さらなる具体案の検討を進め、平成28年4月の合意書締結をめざします。



覚書を交換する倉田箕面市長（左）と平野俊夫総長



新キャンパス・イメージパース

1. キャンパス移転による効果

新駅周辺へのキャンパス移転により、大阪大学と箕面市が共に飛躍・発展する起爆剤となります。

(1) 大阪大学の効果

◇大学のグローバル化を推進するための活動拠点となります。

◇周辺の箕面市の施設とも連携し、社会に開かれた大学として、社会・地域貢献機能の強化を行います。

(2) 箕面船場のまちづくりへの効果

◇学術研究という“文化”そのものがまちの魅力となると同時に、新キャンパス周辺に大学発ベンチャー企業を集積するなど、新たな可能性が広がります。

◇閉じられたキャンパス内ではなく、街なかで常に数百～数千人の学生・教員が活動することで、商業や市民活動の大きな活力となります。

2. 新キャンパスのポテンシャルと現キャンパスの跡地活用

(1) 大阪大学箕面新キャンパスのポテンシャル

◇大阪大学は世界トップ10をめざしており、箕面キャンパスの移転は、「世界適塾構想の柱となるプロジェクト」となります。

◇箕面新キャンパスは、大阪大学の全てのキャンパスをT字に結ぶ結節点となり、有機的なキャンパス間連携を実現します。

◇大阪大学初めての都市型キャンパスとして、駅前の地域に溶け込んだ新しい魅力あるキャンパスになります。

(2) 現キャンパスの跡地活用

◇現キャンパス移転後の跡地については、市が保有し、大阪大学と連携しつつ、スポーツ施設(総合運動場等)の整備を含め、有効な活用を検討します。

理事・副学長 恵比須 繁之



平野総長談話

2007年に大阪外国語大学と統合して以来、箕面キャンパスの問題は大阪大学にとって最大の解決すべき課題でありました。現在、大阪大学は豊中、吹田、箕面の3つのキャンパスに分散しており、スクールバスを走らせるなどして学生の授業への影響、負担の軽減を図っています。また、箕面キャンパスの建物の老朽化と利活用方策などが喫緊の課題となっており、総長就任にあたってこの問題を引き継ぎ、この4年間様々な問題解決策を考えてまいりました。しかし、財政的な問題もあり解決は容易ではありませんでした。

このような状況の中で、昨年、箕面市から2020年度の「北大阪急行線」延伸に伴う「箕面船場駅前整備構想」の核として、箕面船場駅の駅前に箕面キャンパスを移転する案が提示されました。最初お聞きした時は長年の懸案が一挙に解決する夢のある話と思い、大阪大学として予備的検討をさせていただきたいとお返事申し上げました。その後、箕面市と大阪大学との間で詳細な検討を続けてまいりました。

今回の「箕面新キャンパス」整備は、単なる外国学部の移転ではなく、大阪大学が進めている世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、「世界適塾」構想の柱の一つとなる大きなプロジェクトと位置付けており、大阪大学外国語学部を誘致する構想について箕面市と連携して進めることとしました。

新キャンパスは豊中、吹田キャンパスの中間に位置する箕面船場駅前に「都市型キャンパス」として整備を計画するものであり、「地域とのコミュニティの形成、連携」「箕面市との施設の相互利用」等の価値が期待できます。豊中、吹田、中之島センター、そして適塾などの大阪大学の主要施設と、大阪市内、新幹線や大阪空港とも20～30分の距離であり、いわば「T字型ライン」に立つアクセスのよさは大きなメリットです。新キャンパスは、将来「世界適塾」としての大阪大学のヘッドクォーターとしての機能を果たすことが期待されます。

このように箕面市と大阪大学の双方にとって立地条件のよさ、将来の発展を見込める場所であり、箕面船場駅への移転は未来を見据えた夢のある案と考え、本日、基本合意に至りました。そして、2016年4月の正式合意に向けた具体の協議を始めることとしました。大阪大学として積極的にこの移転プロジェクトを推進し、「世界適塾」の要となるプロジェクトとして大阪大学創立90周年を迎える2021年の新キャンパスオープンを目指したいと考えています。

2015年6月17日

大学機関別認証評価の受審

大学機関別認証評価とは、国内の全ての大学が7年に1度、文部科学大臣から認証を受けた評価機関による評価を受ける制度で、その評価結果は教育活動等の改善に役立てられます。

本学は、平成21年度に第1回目を受審し、「大学評価基準を満たしている」と評価され、改善を要する点として指摘された入学定員充足率の状況についても、その後、改善に向けた取り組みを進めてきました。

今年度は、第2回目の認証評価を受審するもので、第1回目と同様に(独)大学評価・学位授与機構を評価機関として選択し、6月末に自己評価書を提出しました(自己評価書は、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「認証評価」で検索してください)。同評価書の作成に際して、各種調査等にご協力いただきました学部・研究科等関係者の方々にに対し、お礼申し上げます。

なお、本年11月5日(木)、6日(金)には、同機構による訪問調査の実施が予定されており、役員のみならず、教職員並びに学生の方々数名に出席いただくことになりますので、その際にはご協力をお願いいたします。

理事・副学長 恵比須 繁之



平成 21 年度認定証

第3期中期目標・中期計画(素案)を策定

平成 28 年度から始まる第3期中期目標・中期計画(素案)を教育研究評議会、経営評議会の議を経て、6月末に文部科学省に提出しました。

今後は、国立大学法人評価委員会の審議を経て、来年1月末までに第3期中期目標・中期計画(原案)を提出する予定です。

なお、第3期中期目標・中期計画(素案)の概要は以下のとおりです。

【中期目標の前文】	
教育	○大阪大学は、緒方洪庵の適塾の精神を継承し、世界に開かれた大学、世界に貢献する大学、「世界適塾」となることを志す
	○「学問による調和ある多様性の創造」を理念に掲げ、「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追求する
	○新たな学術領域の創造、専門分野を超えた「知の統合」を通じて地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出

第 3 期中期目標・中期計画（素案）の主要事項	
教育	高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引する「知」を備えた人材を育成 ●新たな学位プログラムの構築、高度汎用力教育プログラム等の実施 ●教育の質保証と国際標準化（シラバスの実質化、科目番号制の導入等） ●クォーター制（3 学期及び夏季講習期間）の導入 ●新たな総合入試制度（世界適塾入試）を平成 29 年度から導入し、入学定員の約 10%を受け入れ
	イノベーションの推進や心豊かで平和な社会の実現のため、学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創造と学術研究の推進により、学問の府として物事の本質を究める基礎・基盤研究を振興 ●国際共同研究推進プログラムによる国際ジョイントラボを増加（平成 33 年度末までに 80 件） ●未来戦略機構に新たな研究部門を 1 0 部門創設 ●優れた業績を誇る研究者の招へい（特別教授制度や評価運動型年俸制、クロス・アポイントメント制度等の活用） ●若手研究者の支援（若手研究者キャリアアップ支援プログラムやチャレンジ支援プログラム等）
社会貢献・社会連携	社会ニーズを先取りしたオープンイノベーションを創出すべく、産学官の戦略的かつ包括的な連携を強化・推進し、本学の研究成果を国内外に広く還元 ●協働研究所や共同研究講座を通じた「インダストリー・オン・キャンパス」の深化（平成 33 年度末までに新たに 40 件以上設立） ●研究者の研究成果公開活動（アウトリーチ活動）の推進
	徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、「調和ある多様性」を具現化する世界展開力を強化 ●学生の海外派遣増加、留学生の受入増加（平成 33 年度末までに派遣 8 %、受入 15%） ●大学間学術交流協定の増加（平成 32 年度末までに 120 件） ●外国人数員を増加（平成 33 年度末までに 400 名程度）
業務運営	総長のリーダーシップのもと、機動的・弾力的な組織運営を行い、「世界適塾」実現に向けた経営戦略に基づくガバナンスを構築 ●大学の強みや特色を生かした機動的なガバナンス体制を構築 ●学内資源の戦略的な配分

理事・副学長 恵比須 繁之

「世界適塾ビレッジ」第I期事業の選定手続きを開始

昨年の役員会において決定した「世界適塾ビレッジ」第I期事業の実施事業者の選定手続きを開始しました。

「世界適塾ビレッジ」ー Global Village ーは、留学生を含む学生、教職員及び研究者が同じ場所で生活・交流を行う新しい宿舍計画であり、既存の教職員宿舍の廃止、学寮の混住化等を含め、最終的に学寮・教職員宿舍計 2,600 戸の国際的生活環境を生み出すことを目指しています。「世界適塾ビレッジ」においては、居住者の垣根を越えた交流によるインタラクションの実現を目標とし、教育機能を重視し、高い識見と人格、リーダーシップとコミュニケーション能力を備えた、世界に活躍するグローバル人材育成の拠点と位置付けています。

その第I期事業として、吹田市津雲台にPFIの手法を用いて整備を行い、約700戸程度の宿舍・寮が新たに完成する予定です。

現 教職員宿舍 津雲台宿舍	
廃止・解体	297 戸
土地面積	約 23,800 m ²



学寮	教職員宿舍		
日・留混住	独身用	単身用	家族用
約 300 戸	約 320 戸	約 40 戸	約 40 戸
シェアタイプ	1R	1LDK	3LDK
延床面積		約 24,000 m ² 程度	
民間収益施設		土地を民間貸付→利用者負担額等の軽減	

現在、「世界適塾ビレッジ」施設整備運営事業提案審査委員会を立ち上げ、公募に向けた手続きを開始したところであり、本年度中に本事業を実施する事業者の選定を予定しています。平成 29 年から工事に着手し、平成 31 年度より運用開始の予定です。

理事・副学長 恵比須 繁之

施設整備とキャンパス環境の改善

◆工学M3棟

6月に、吹田キャンパス工学部エリアに改築された「工学M3棟」が完成しました。この建物は隣接する「工学M1棟」とともに、環境とのづくりに関わる、工学研究科の実験研究棟として整備されました。環境・エネルギー工学、機械工学、精密科学、高度で実践的な教育の場である未来工学ファクトリといった異分野が集まることで、これらの融合によるイノベーション創出が期待されます。



(工学M 3 棟)
地上 5 階建て 延べ面積 6,850 m²

◆オンコロジーセンター棟

同じく6月に、医学部附属病院北側に「オンコロジーセンター棟」が完成しました。この建物には、がんに対する高度な薬物療法を安全に実施することができる化学療法室が設置されているのみならず、がん相談室も併設し厚生労働省指定の『地域がん診療連携拠点病院』としての機能強化も目指しています。

本建物の外観は周辺の附属病院建物群と調和し、内装については治療を受ける方が快適に過ごせ、安らぎを感じられる空間となっています。



(オンコロジーセンター棟)
地上 5 階 地下 1 階建て 延べ面積 3,471 m²

理事・副学長 恵比須 繁之

大阪大学未来基金 学部学生による自主研究奨励事業 ～「おもろい!やってみなはれ@阪大」プロジェクト～

大学に入るとできるだけ早い時期に「教わる」から「自ら学ぶ」姿勢へと転換することが大切です。大阪大学では基礎セミナーなど対話型の初年次教育によってその機会を提供しています。大阪大学未来基金では平成27年4月から自ら学ぶ態度を身に付けた学部1～3年生を対象として、学部生の自由な発想に基づく自主研究奨励事業を開始しました。

自ら見つけた課題について研究したい学生はその課題に詳しく教員を探し出して、アドバイザー教員になって貰うように説得し、引き受けてもらえたら研究計画書を提出します。研究計画が採択された学生には10万円を上限として研究費が支給されます。アドバイザー教員にもTA雇用などの研究支援経費として10万円が配分されます。初年度となる今回は59件を採択しました。本事業の研究発表会は来年5月のいちよう祭で開催されます。

大阪大学の学生には、簡単なことでも良い、知を創造する仲間になったという意識を持って欲しいと思っています。

詳しくはWEBページをご覧ください：
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/oumode/education_env/ug_jishuken

理事・副学長 東島 清
理事・副学長 大竹 文雄



最近の大学ランキング

6月10日にQuacquarelli Symonds (QS) 社から「2015年アジア大学ランキング」が発表され、下の表のように、大阪大学は13位（国内2位）にランクされました。なお、QS社の世界大学ランキングについては、昨年9月16日に発表されたものが最新で、大阪大学は55位（国内3位）にランクされています。

一方、6月11日に発表されたタイムズ社のTimes Higher Education (THE)「2015年アジア大学ランキング」では大阪大学は18位（国内4位）にランクされました。THEの2014年世界大学ランキングでは157位（国内4位）でした。

このようにランキングによって大阪大学の順位が異なっているのは、それぞれが使っている指標とデータが違うからです。また、これらの2社は世界の高等教育機関に関する情報を提供する営利企業であって、指標とデータの合理性が保証されているとは必ずしも言えない、との指摘もあります。

とは言え、大学ランキングを無視することはできません。留学生は志望校の選択にランキングを参考にするからです。その順位を上げる一つの有効な方法は、指標のかなりの部分が研究者による評判（QSアジアで30%、QS世界で40%、THEでは33%）によりますから、大阪大学の個々の研究者がいろいろな機会をとらえて、自分の研究成果を宣伝することも大事です。

理事・副学長 相本 三郎

	QS アジアランキング				
	2011	2012	2013	2014	2015
東京大学	4	8	9	10	12
大阪大学	8	11	15	13	13
京都大学	7	10	10	12	14
東京工業大学	9	13	13	15	15
東北大学	9	14	17	18	20
名古屋大学	14	18	18	20	21
北海道大学	20	23	24	23	25
九州大学	18	22	20	24	28

若手研究者キャリアアップ支援プログラムを創設

明日の大阪大学を支える若手研究者に対し、多くの研究の芽を育てるとともに、研究の多様性を確保することを目的として、「大阪大学若手研究者キャリアアップ支援プログラム」を創設しました。

このプログラムは、本学の39歳以下の若手研究者を対象とし、平成27年度科学研究費助成事業へ申請したものの惜しくも採択とならなかったものの中から、研究者としてのキャリアアップの可能性が高いと認められるものについて、一年間大学独自財源により、研究に必要な経費の支援を行うものです。

今年度は、学内公募に対して34件の申請があり、選考委員会において30件の研究課題を選定し、1件あたり最大90万円の支援を行うこととしました。

本プログラムでの支援により遅滞なく研究を進め、平成28年度科学研究費助成事業では是非とも採択されることを期待します。

理事・副学長 相本 三郎

ロシア科学アカデミー総裁に大阪大学名誉学位を授与

6月9日（火）、ロシア科学アカデミーのウラディミール・フォルトフ総裁を大阪大学本部に招き、「大阪大学名誉学位記授与式」を挙行了しました。

「大阪大学名誉学位」とは、国際文化交流を通じ、大阪大学の教育研究上、功績が特に顕著であった外国人に授与するもので、フォルトフ総裁は5人目の称号取得者となります。

フォルトフ総裁は、大阪大学との共同研究を、新たな日露政府間共同研究として我が国の国務大臣に直接提案するなど、我が国のみならずロシア連邦において大阪大学のプレゼンスを上げることに大きく貢献されています。

今年の2月9日には、大阪大学とロシア科学アカデミーの間で大学間学術交流協定も締結しており、今回の授与により、今後の大阪大学とロシア科学アカデミーとの学術交流の更なる発展が期待されます。

理事・副学長 相本 三郎



コンプライアンス推進責任者等への説明会を開催

6月30日(火)、コンベンションセンターMOホールで「コンプライアンス推進責任者及び同副責任者説明会」を開催しました。

本説明会は、学内ビデオ会議システムを利用して豊中キャンパスと箕面キャンパスにも会場を設けて、各部局等において不正防止対策を確実に実行し、公的研究費が正しく執行されるように運営・管理を行う実質的な責任と権限を持つコンプライアンス推進責任者及び同副責任者の役割を説明しました。

各責任者等は不正使用防止計画推進室が提供する教育用教材等を活用して、部局内のコンプライアンス教育を実施していただきますようお願いします。

理事・副学長 相本 三郎



ハラスメント相談室だよりを発行

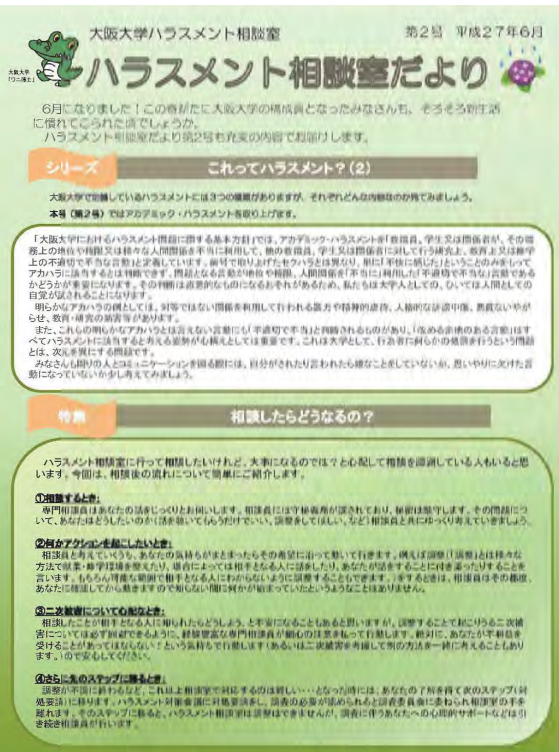
大阪大学では「大阪大学におけるハラスメント問題に関する基本方針」を定め、ハラスメント問題について、良好な教育・研究・労働環境を維持するために、その発生の防止や問題の解決に取り組む大学の姿勢を明らかにし、大学の構成員・関係者に周知しています。

このたび、ハラスメント相談室だより第2号を発行しましたので、是非ご覧ください。

バックナンバー等も、本学公式ウェブページでご覧いただけます。

掲載URL : http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh

理事・副学長 相本 三郎



平成27年度海外への研究者派遣プログラム／海外からの研究者受入れプログラム(第1回)を選定

国際共著論文の執筆や将来の国際ジョイントラボの設置など、今後の展開が期待できる研究計画を支援することによって本学の研究力強化に資することを目的とし、「海外への研究者派遣プログラム／海外からの研究者受入れプログラム」を実施しています。平成27年度第1回(5月～9月開始分)として、下記の課題を採択しました。

【派遣】

●齊藤 弥生(人間科学研究科 教授)
課題名: 高齢者介護の日独比較研究
派遣先機関名(国名): University of Vechta(ドイツ)

●藤岡 慎介(レーザーエネルギー学研究センター 准教授)
課題名: レーザー生成強磁場による相対論的量子ビームの輸送制御
派遣先機関名(国名): ボルドー大学(フランス)

●辻 拓也(工学研究科 准教授)
課題名: 高濃度固気二相流中における粗大物体運動の超高速MRI計測と数値シミュレーション
派遣先機関名(国名): スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)

●山本 剛史(薬学研究科 助教)
課題名: シアニン系色素の光酸化的結合壊裂反応を利用した精度の高い癌標的化戦略の開発と癌治療応用
派遣先機関名(国名): National Institute of Health(米国)

●境 慎司(基礎工学研究科 准教授)
課題名: 細胞表面への選択的ヒドロゲル被膜形成とそれを利用した細胞分離技術の開発
派遣先機関名(国名): Warsaw Univeristy of Technology(ポーランド)

【受入れ】

今回採択なし

理事・副学長 岡村 康行

平成27年度大阪大学部局主催国際シンポジウム等開催支援事業を選定

本学における学術研究の成果、研究者の活動を広く海外に発信し、海外における本学のプレゼンス向上が期待できるような国際シンポジウム等を組織的に主催する部局に対して、その開催に係る経費を支援しています。

今年度は、学内公募に11件の申請があり、選考委員会において6件のシンポジウムを選定しました。

<採択>

●免疫学フロンティア研究センター
The 5th NIF Winter School on Advanced Immunology
●工学研究科
Japan-Asian CORE Program “Nanophotonics in Asia 2015”

●接合科学研究所
Middle East-Japan International Symposium on Joining Technologies and Materials Science -Developing Research Network-

●蛋白質研究所
アジア・オセアニアにおける蛋白質科学の新たな地平(New Horizons of Protein Sciences Bridging Asia Pacific Regions)

●基礎工学研究科
Second International Engineering Science Consortium Meeting International Symposium on Engineering Science Second International Engineering Science Student Workshop International Engineering Science Student Competition

●文学研究科
人文学における日本研究: 江戸庶民文化の諸相

理事・副学長 岡村 康行

役員室だより

大阪大学ベンチャーキャピタル（株）の投資ファンドに対する本学からの出資100億円が認可

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社（以下「OUVC」）を無限責任組合員とするOUVC1号投資事業有限責任組合（以下「OUVC1号ファンド」）の「特定研究成果活用支援事業計画」に対し、6月4日付で文部科学省・経済産業省から認定を受け、さらに、6月30日付でOUVC1号



ファンドに対する本学からの出資金100億円が、文部科学省から認可されました。これを受けて、その他民間企業から出来るだけ多くの出資を募り、8月には投資業務を開始する予定です。

今後、OUVCは、本学の関連各部署ならびに民間事業者との連携を積極的に進め、研究成果の実用化促進に向けた取組を加速していくことになりますが、OUVC1号ファンド設立後、投資活動の円滑な推進に向け、人員の増強等の体制整備も適宜進めていきます。

理事・副学長 馬場 章夫

○ご興味をお持ちの方は次までお問い合わせください。
大阪大学 共同研究・事業化推進グループ
E-mail：invest[at]uic.osaka-u.ac.jp



総長・理事・監事（7月21日 総長室）

人 事

新施設長

平成27年5月1日

薬学研究科附属薬学地域医療教育研究センター長

平田収正

受賞(章)・表彰等

— 第4回 大阪大学総長顕彰・総長奨励賞 —

【総長顕彰】

教育部門（27名）

文学研究科
伊東信宏 教授
BURDELSKI MATTHEW JAMES 教授
高等司法研究科
水谷規男 教授
国際公共政策研究科
赤井伸郎 教授
人間科学研究科
檜垣立哉 教授
理学研究科
中嶋悟 教授
佐伯和人 准教授
廣野哲朗 准教授
医学系研究科
竹田潔 教授
和佐勝史 教授
歯学部附属病院
長島正 准教授
薬学研究科
平田収正 教授
工学研究科
長谷川和彦 教授
福井希一 教授
藤田喜久雄 教授
藤本公三 教授
山中伸介 教授
渡邊肇 教授
丸田章博 准教授
基礎工学研究科
内田雅之 教授
言語文化研究科
上田功 教授
接合科学研究所
伊藤和博 教授
未来戦略機構
川嶋太津夫 教授
齊藤貴浩 准教授
全学教育推進機構
宇野勝博 教授
佐藤浩章 准教授
インターナショナルカレッジ
UEDA-SARSON LUKE DYLAN 特任准教授（常勤）

研究部門（108名）

文学研究科
関府寺司 教授
堤研二 教授
桃木至剛 教授
法学研究科
大久保規子 教授
田中仁 教授
人間科学研究科
苧阪満里子 教授
澤村信英 教授
志水宏吉 教授
稲場圭信 准教授
理学研究科
大鹿健一 教授
岡田美智雄 教授
小木曾啓示 教授
梶原康宏 教授
久野良孝 教授
小林研介 教授
今野巧 教授
長峯健太郎 教授
村田道雄 教授
花垣和則 特任教授（常勤）
砂川秀明 准教授
住貴宏 准教授
寺崎英紀 准教授
医学系研究科
磯博康 教授
上田啓次 教授
片山一朗 教授
金倉譲 教授
金田安史 教授
澤芳樹 教授
竹原徹郎 教授
西田幸二 教授
森正樹 教授
玉井克人 寄附講座教授
中神啓徳 寄附講座教授
中田慎一郎 准教授
南野哲男 准教授
金田眞理 講師
平野賢一 助教
歯学研究科
天野敦雄 教授

西村理行 教授
薬学研究科
小林資正 教授
辻川和丈 教授
堤康央 教授
水口裕之 教授
工学研究科
伊東忍 教授
今中信人 教授
掛下知行 教授
梶島岳夫 教授
河田聡 教授
紀ノ岡正博 教授
倉本洋 教授
兒玉了祐 教授
才田一幸 教授
澁谷陽二 教授
廣瀬明夫 教授
藤本慎司 教授
箕島弘二 教授
森勇介 教授
森島圭祐 教授
山下弘巳 教授
渡部平司 教授
小俣孝久 准教授
垣内弘章 准教授
甲谷寿史 准教授
中西英之 准教授
萩原幸司 准教授
基礎工学研究科
石黒浩 教授
馬越大 教授
清水克哉 教授
鈴木貴 教授
戸部義人 教授
永妻忠夫 教授
野村泰伸 教授
真島和志 教授
松林伸幸 教授
宮坂博 教授
言語文化研究科
大澤孝 教授
生命機能研究科
高島成二 教授

難波啓一 教授
濱田博司 教授
平岡泰 教授
吉森保 教授
明石満 特任教授（常勤）
情報科学研究科
西尾章治郎 教授
東野輝夫 教授
日比孝之 教授
橋本昌宜 准教授
原隆浩 准教授
微生物病研究所
目加田英輔 教授
岩本亮 准教授
産業科学研究所
田中秀和 教授
谷口正輝 教授
永井健治 教授
中谷和彦 教授
松本和彦 教授
吉田陽一 教授
能木雅也 准教授
槇原靖 准教授
楊金峰 准教授
蛋白質研究所
中川敦史 教授
接合科学研究所
田中学 教授
南二三吉 教授
塚本雅裕 准教授
サイバーメディアセンター
松岡茂登 教授
レーザーエネルギー学研究センター
西村博明 教授
免疫学フロンティア研究センター
荒瀬尚 教授
木下タロウ 教授
坂口志文 教授
黒崎知博 特任教授（常勤）